

第10回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会育み部会議事録

- ◆開催日時 平成26年11月12日(水) 17:30~19:00
- ◆開催場所 第1委員会室
- ◆出席部会員 部会長 安宅 錦也
副部会長 川村 正勝
部会員 仲川 弘誓
合田 美津子
佐藤 文子
磯田 大治
佐藤 史彦(庁内検討委員会 部会長)
【教育部次長】
千葉 浩樹(庁内検討委員会 副部会長)
【教育部社会教育G総括主幹】
- ◆欠席部会員
- ◆事務局 上野総務部企画調整G企画主幹
- ◆議題 「第5章 豊かな個性と人間性を育むまち」について

〈部会長〉

それでは、第10回育み部会を始めたいと思います。
まず、事務局から前回の説明をお願いします。

〈事務局〉

前回は、第4節のスポーツの部分については、ここでの運動、体力づくりの部分と、第1章「やさしさを共生するまち」の第2節「市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまち」で言うところの、生活習慣病の予防の部分と密接に関連してくるところなので、そこをうまくリンクさせて、提言という形で、この5章の中にどういう表現で盛り込んでいくのか、ということまでを話し合ったと思います。

今日は、次の4「施設設備の推進」からということになりますが、ここが5章の最後の部分なので、提言のところから始めたほうがよろしいでしょうか。

〈部会員〉

とりあえずここを終わらせたほうが良いと思いますが。

〈部会長〉

それでは、4「施設整備の推進」について話をしていきたいと思います。
この部分について何かご意見などございますでしょうか。

〈部会員〉

既存の施設をうまく使うことができないかどうか

既存の施設に今の仕組みのまま団体をスケジューリングしていくと、多分それだけで一杯になってしまうと思いますし、新しい人や団体が何かをしようとしても入らないと思います。

次年度は体育館が大規模改修されるようですし、そうするとさらに溢れて行き場がなくなるのではないかと懸念の声が上がっています。

そうすると施設の数に限られているので打つ手がないですね。

例えば、学校開放事業では体育館を2つに分け、2団体に貸すような仕組みになっていますが、もっと細分化して多くの団体が使えるようにするなどの工夫が必要ではないかと思います。

〈部会長〉

やはり課題となるのは屋内の場所の確保ということでしょうか。

〈部会員〉

そうですね。屋内が厳しいですね。

〈市庁内部会副部会長〉

富岸の青少年会館はこの春から有料化にしましたが、ここは今まで利用する団体が固定化されており、他の団体が入れないという状況が見られたことから、手を加えまして、まず利用時間を2時間のコマに分け、青少年の方から順に予約を取ってもらい、空いている時間を一般の方に使っていただくというやり方に変更しました。

予約が重なった場合はくじ引きとしましたが、実際にはくじではなく団体間で話し合いをして決めているようです。

ただ、やはり一部の団体からは、なぜそのようなやり方に変更したのかといった声も寄せられました。

学校開放についても、利用団体に集まってもらい話し合いをして決めています、絶対数が足りないので常に一杯の状態です。

同じ目的の団体がそれぞれ違う日を利用している場合などは、合同で利用すればいいのにはと思いますがなかなかうまくいきませんね。

そこをうまく整理できればいいのですが、そこまでは踏み込めないというのが実態です。

〈部会員〉

総合体育館の改修はどのような内容ですか。

〈市庁内部会副部長〉

改修が必要な部分はたくさんあるのですが、全部実施すると5億円程度かかってしまうので、優先順位の高い箇所からピックアップして行うこととしています。

まず、雨漏りの解消と壁のひび割れ補修が最優先ですが、それだけで予算枠のかなりの部分を消化してしまうことになります。

見た目が少しきれいにはなりますが、変わらない箇所がかなり残ることになります。

〈市庁内部会部長〉

基本は延命化ですからご理解ください。

〈部会員〉

あの体育館は、10年後にまた改修が必要になりますよね。

そのときに、さらに費用をかけ改修をして延命化を図るのか、それとも新しく建て直すのかという判断をする場面が出てくると思います。

今の体育館の場所は、あまりいい場所とは言えないと思いますので、建て替えをするのならスポーツ施設が複数あるようなエリア、例えば市民プールや岡志別公園があるエリアに造るのが適当ではないかと思います。

これからの10年は、建て替えも含めて次はどうするかについての検討期間だと思います。

〈市庁内部会部長〉

現在市では、公共施設の整備方針や大型事業推進プランについての検討が進められていますが、そうした計画とこの基本計画が連動する形になるのが理想ですね。

〈部会員〉

スポーツ振興センターの助成金などを利用したりする方法もあると思いますが、市はそういうことをしないのですか。

〈市庁内部会部長〉

それに限らず、活用できるものはすべて活用しながら計画を立てたり、実施したりしています。

〈市庁内部会副部長〉

新設のものについてはいろいろとメニューがあるのですが、改修だとなかなか少な

いのが現状で苦勞しています。

岡志別の辺りは我々も注目しているところで、体育館だけではなくその他の機能も持たせた複合的な施設ができればいいなと思ってはいますが。

〈部会員〉

そういうことを考えていく時期に差し掛かっているということなのでしょうね。

〈部会長〉

施設がいろいろな場所に分散していることについて、川上公園の有効活用も含めて考える必要があるのではないかと思います。陸上競技場の活用状況は今どうなのでしょう。

〈市庁内部会副部長〉

陸上競技場は、あるスポーツクラブにサッカーで活用してもらっていますが、現在は公認競技場ではなくなっていますので、それまで年に2、3回程度開かれていた市内の陸上大会がなくなっていました。

そういう現状なので、競技場としての活用ではなく、市民の方がサッカーや散策、スポーツなどを楽しんだりする場所としての活用に留まっています。

あと、中学校の活動でも利用してもらっていますね。

〈部会員〉

登別大谷高校の体育館などの施設はどうなっているのでしょうか。

〈事務局〉

詳細はお話しできませんが、いろいろと検討していると聞いています。

〈部会員〉

広大な敷地なので、残すにしても壊すにしてもいい方法で活用できるといいですね。

〈部会員〉

壊れたときに何とかするという対応ではなく、「老朽化した施設については移転を含め検討する」などの文言が必要ではないでしょうか。

〈市庁内部会副部長〉

これまでの10年間で老朽化が進んで、今後の10年ではさらに進むわけですから、これまでの対応ではそろそろ限界に来ているのは確かですね。

〈部会員〉

今後10年を考えると確実に高齢者が増えることにはなりますが、65歳以上の方が利用できるスポーツ施設の環境というのは、今どのような状況にあるのでしょうか。

〈部会員〉

市のスポーツ施設の中で最も活用されているのは、市民プールではないかと思いますが、利用者はどれくらいいるのでしょうか。

健康増進とスポーツを併せて考えたときに最も重要な施設になってくると思いますが。

〈市庁内部会副部長〉

年間で11万人程度です。

〈部会長〉

岡志別のパークゴルフ場の利用率はどうか。

〈市庁内部会副部長〉

フラットなコースに慣れてしまったためか、一時期より人気落ちており利用者は減少傾向ですね。

〈部会長〉

一つのエリア内にプールやパークゴルフ場などの施設がコンパクトにまとまっているので、このエリアに施設を集めることで相乗効果により利用率の向上が図られると思います。

今後10年間で計画の検討をする際にも十分考えてみる価値はあると思います。

〈部会員〉

スポーツと旅行・観光を結びつけたスポーツツーリズムという考えがありますが、今後10年間を考えたとき、そういうものを進めていこうとする考えはありますか。

〈事務局〉

この秋に行われました、政策秘書Gの「北海道いぶりロングライド2014」が、まさにその考えによって企画されたもので、今のところ次年度も行われる予定です。

〈部会員〉

先日行われた帯広のマラソン大会では、3回目にもかかわらず4500人も集まったようですし、その人たちが消費、宿泊する経済効果を考えると非常に大きなものが

ありますね。やり方が上手いと思います。

例えば、我々が12年間ほど継続して年2回実施している中学生の大会がありまして、参加者230人ほどが登別温泉に宿泊しました。

この人数は修学旅行に匹敵するものだと思いますし、去年の小学生の大会でも参加者が1200人もおり、その中の100人が宿泊したという実績もありますので、工夫しだいでまだまだ経済効果が見込めると思います。

〈部会員〉

大人数で安く泊まれるような施設があるといいのですが。

〈部会員〉

旧旅館を改修して貸別荘にしているところがあるようですね。大人数でも泊まれるようです。

〈市庁内部会部会長〉

カルルスの開鎖したスポーツ施設はもう使えない状態なのですか。

〈部会員〉

使わせてもらえるのなら知恵を絞って考えますが。

ただ、せめてトイレはほしいですね。

〈部会員〉

少しそれますが、人口が減っていくのは、登別だけではなく他のまちも同じ状況であるならば、増やすことに注力するよりも減ることを前提に施策を進める方が無駄がないのではないかと思います。

もちろん、増やす努力は不要だということではありませんが。

〈部会員〉

ある意味、発想の転換ですよ。

設定した人口で計画を立てる方が無駄がなく効率的だと思います。

〈部会長〉

既存の施設をどのように改修・活用していくかということ、10年後を見据えていろいろとご意見をいただきました。

〈部会員〉

学校の統廃合についても避けて通れないのですから、いろいろ問題はあると思いますが、地域住民の理解が得られるよう丁寧に説明して合意を得るのが行政の手腕では

ないでしょうか。

〈市庁内部会部会長〉

人口が減少していくと近隣市町との合併がなかなか難しくなると思いますが、様々な施設を共同で使おうといった動きは出てくるでしょうね。

その場合、各まちの住民からはいろいろと不満の声が出てくると思いますので、今から地域住民の考えを聞いておくことも必要ではないかと思います。

すぐにまとめるのは難しいと思いますから。

〈部会員〉

図書館の統合はだめですよ。

〈部会員〉

前回も話したと思います、今の時代、すべてを横並びにして整備していくことはできないのですから、これについて取捨選択をし、残すものには人・もの・金を集中して投下することを進めていくべきだと思います。

〈事務局〉

この体系図の議論がひととおり終わった後は、この章の最初に戻って振り返りを行い、この基本計画が今後10年間を見据えたものとなっているかについて改めて確認しながら、提言書としてまとめるためのポイントやキーワードについてピックアップをしていきます。

〈部会員〉

あまりイメージが湧かないのですが。

〈部会長〉

これまで積み上げられてきた議論をもとに、提言書としてまとめていくということですね。

〈事務局〉

そういうことになります。

〈部会員〉

この計画は、どうしても抽象的な言葉にならざるを得ない部分があると思いますから、それに付随する提言書が重要になってくるということだと思います。

〈部会員〉

施設についてはこれくらいでいいのではないかと思います。

〈部会長〉

では、これまで皆さんからいろいろとご意見をいただけてきましたが、5章の最初に戻りまして、この部会として今後10年を見据えてどのように提言していくのかについて、具体的に検討していくことになります。

〈事務局〉

例えば第1節の部分で、以前にご意見としていただいたのは、ボランティアだけでは限界があるので、シルバー人材センターなどを活用し、有償と無償を融合させたようなシステム作りが必要ではないかというものでしたが、これからの進め方としては、先ほどお話しさせていただいたように、ポイントやキーワードをピックアップして、それを後ほど事務局でまとめるというやり方がいいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

〈部会長〉

第1節であれば、生涯にわたって学び続ける社会を作るために今後10年を見据えたときに、この内容で過不足がないのかということ 키워ドとして拾っていく、ということですね。

〈事務局〉

そういうことになります。

〈部会員〉

これからの高齢化社会を考えたときに、労働力としてのシルバー人材センターの活用というのは避けて通れないことだと思います。

テレビの特集でもやっていましたが、これからはシルバーの方に社会参加してもらったり、いろいろな場面でのフォローをお願いするような社会になるという内容でしたが、まったく同感で、改めて考えていく必要があるのではないかと思います。

そのような機運をどのように作っていくのか、ということ盛り込む必要があるのではないかと思います。

複数のメニューを提示して、その中から参加したいものを選択してもらおうという形がいいのではないのでしょうか。

〈部会員〉

これからは65歳以上の人たちが人口の多くを占めるようになるわけですから、その人たちに生きがいのある生活を営んでもらうためには、健康寿命をどれだけ伸ばす

ことができるかということが重要になってくると思います。

そのためには、生きがいとしての生涯学習やスポーツも大切になってきますので、それを健康寿命を延ばすための対策として組み込んでいく必要があると思います。

〈部会員〉

生涯学習を各地域に落とすという発想があるといいのではないのでしょうか。

例えば、町内会館を起点に様々な経験や知識・ノウハウなどを持った人が集まって、一つの学校のようなものができ、地域の人たちが気軽に利用することのできる環境が整備されるといいですね。

そこに気軽にやって来て市民活動や生涯学習を行うイメージですね。

あとは、町内会の中に生涯学習についての部会を作り、そこと様々な団体が連携して活動を広げていく、ということも考えられるかもしれません。

〈部会員〉

いい考えだと思います。

全市にそういうノウハウなどを持った高齢者が沢山いると思いますが、どうすれば自分のノウハウを役立てたり伝えたりすることができるのかが分からない。

各地域に活動の拠点となるような組織や場所があれば、身近にあって休眠しているノウハウを活用できると思いますし、教える人も教えられる人もそれぞれが生きがいを持って成長していけるのではないのでしょうか。それも生涯学習だと思いますが。

〈事務局〉

それを実現するには誰が主導していけばいいのでしょうか。

行政ですか。市民ですか。

〈部会員〉

市民組織と行政が、協働のまちづくりという大きなテーマのもと連携すればいいのではないのでしょうか。

〈部会員〉

場合によりますが、例えば、地域にも同じような人材がいるのに札幌から講師を呼んで講演会を開く、というのはできるだけ止めて地域の人材をもっと活用するようにすれば、人材の流出を防ぐことができると思うのですが。

地域で人材を共有し合うという発想です。

〈部会員〉

ここの施策に予算付けされているといいのですが、財政的なことを考えると難しい

でしょうね。

〈部会員〉

大きなまちの真似をしても上手くいかないですから、このまちに相応しい身の丈に合った計画でなければならないと思います。

小さなまちで自分たちは何ができるのか、ということをもっと話し合っていくことが大切で、その中から「この部分なら自分も協力できる」といった声が自然発生的に上がってくるようになると、それが地域の原点となり安心安全なまちづくりのベースが出来上がっていくのだと思います。

これまでの発想を捨てるくらいの思い切った転換が必要な時期に来ているのではないのでしょうか。

〈部会員〉

町内会をもっと有効に活用できないのでしょうか。

〈部会員〉

私のところの町内会は比較的小さな組織ですが、その中にはヨガや卓球などのサークルや老人クラブなどもありますし、年に一度保健師さんに来ていただいて運動をしたり、健康チェックをしたりというような活発な活動を行っています。

ヨガや卓球では講師の先生を呼んでいませんが、ご近所さんから始まったものがサークルにまで発展していますし、会館を空けることなく有効に使っていると思います。

〈事務局〉

若い人たちの参加はありますか。

〈部会員〉

残念ながら今のところないですね。

やはり高齢になると、車やバスに乗ってわざわざ出かけて行き何かをする、という行為自体がだんだん難しくなってきますから、活動の拠点となる場所が近くにあるということが重要になってくるのだと思います。

〈部会員〉

運動やスポーツに限らず、その中に趣味や文化活動のサークルもでき、それが生きがいとなって健康増進に繋がっていく、という循環が事前に出来上がっていくというのが理想ですね。

〈部会員〉

施設の環境の問題ですよ。

先ほど話した、地域で人材を共有し合うという考えと今の話を結びつけていくと、より活動が活発化されるのではないのでしょうか。

〈部会員〉

顔の見える関係を広げていき、それを地域間で連携していくという考えが大切ですね。

そういう中で経済効果も生まれてくると思うのですが。

〈部会員〉

連合町内会は地域の組織として機能しているのでしょうか。

〈市庁内部会部会長〉

微妙なテーマですね。

〈部会員〉

時代に合った組織や活動内容であればいいのですが、組織の今後を考えたとき旧態依然としたものではないかと思えます。

後を継ぐ人が出てきにくいような環境では発展できないと思えますので。

〈部会員〉

災害などを考えると、やはり連合町内会は絶対必要な組織だと思いますが、連合町内会を周りの団体がバックアップしていく体制といいますか、そのあたりはまだ十分ではないのかなと思えます。

〈部会員〉

若い人たちにまずテーブルについてもらわないことには、次に繋がって行きませんから。

これに限らず担い手の確保ということも、危機感を持って真剣に考えていかなければならないと思えます。

例えば、町内会で子育て支援をやっているというのは聞いたことがありませんし、そうした若い世代の人を呼び込むような活動を広げていくことも、共に成長していく上で大切なのではないかと思えますが。

子どもたちの居場所づくりも町内会が引き受けられるとすれば、また違ったものになっていくのではないかと思えます。

〈部会員〉

それを誰が先導するかという核心の問題があるにせよ、確かにそのとおりだと思いますね。

町内会館がこれから先どのくらい持つのか、という施設整備の問題にも絡んでくる
ところだと思います。

例えば若草の優和園では、子ども会活動も併せて行ったりしていますし、そのよう
な子ども会、老人クラブ、町内会の活動が上手く融合できれば、その部分の生涯学習
に繋がっていくのではないかと思います。

〈部会員〉

昭和30年代が地域の理想の姿だったのでしょうか。

あと、町内会にシルバー人材センター的な機能があれば面白いですね。

〈部会長〉

第1節のここまでのポイントとしては、町内会活動を活性化させ、地域コミュニテ
ィの繋がりをもう一度見直すことが生涯学習に繋がっていき、そこに健康寿命を延ば
すという考えや、シルバー人材センターの活用、といった様々なアイデアが盛り込ま
れることで地域の活性化に繋がっていく、ということになるかと思いますが。

〈事務局〉

ではこれらが第1節のキーワードということによろしいでしょうか。

〈部会長〉

では、そろそろ時間となりましたので次回の日程について事務局からお願いします。

〈事務局〉

今回は、11月20日の木曜日、時間は17時30分からで、場所は第1委員会室
を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。